

上野耕平さんと共演

全国初「NYからの4枚の絵」

佐和高校吹奏楽部



難曲「ニューヨークからの4枚の絵」を佐和高校吹奏楽部と演奏する上野耕平さん（最前列）「ひたちなか市青葉町

ひたちなか市稲田の県立佐和高校吹奏楽部の第31回定期演奏会が5月27日、同市青葉町の市文化会館大ホ

ールで開かれ、東海村出身で世界的に注目されるサクソフォン奏者の上野耕平さん（24）が2年連続で同校部

員たちと共演した。今回は3種類のサクソフォンを使うロベルト・モリネッリの「ニューヨークからの4枚の絵」。同曲が全楽章吹奏楽版で演奏されるのは全国で初めてという。

定演は3部構成で行われ、「ニューヨークからの4枚の絵」は第1ステージの4曲目で演奏。クラシックからタンゴ、ジャズと楽章ごとに曲調の異なる難曲を3種類のサクソフォンを操る上野さんと高校生が響き合いながら20分間、熱演した。佐和高校生との共演は、昨年の定演でのJ・マッキーの「ソプラノサクソフォン」のための協奏曲「演奏に続き2回目」。

上野さんは演奏後「本番の出来が一番いいというのが素晴らしい。僕の演奏がcaすむぐらい、迫力があつた」と話し、「僕の演奏に反応して生徒たちが音楽を

変えてくれるので一緒にやっていて楽しかった」と喜んでた。

第2部では初めてマーチングを披露。第3部はポップスステージと銘打って自

作の音楽劇を演じた。

ステージを終えて3学年の池田歩実部長は「今できる限りのことは最大限表現できたと思う」と話していた。（萩庭健司）

交流館、教委が運営

東海村管理計画骨子示す

東海村が2019年度末の開館を目指す、文化財展示や体験学習ができる複合施設「歴史と未来の交流館」（仮称）に関し、村は1日、運営体制や維持管理費などをまとめた管理運営計画の骨子を村議会全員協議会で示した。

骨子や村の説明によると、交流館は教育委員会が運営し、施設全体を統括する施設管理者の村職員や非常勤の館長を配置する。村民らによる運営協議会を設置し、適切な運営について

村は9日から村内6力所で開く村民対象の座談会で管理運営計画や基本設計などを説明する。全協で